
あるものの死

Python

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
あるものの死

【Nコード】
N8189L

【作者名】
Python

【あらすじ】
どんでんがえしがやりたかった。

私はもうすぐ死神に連れ去られる。

そして地獄に連れて行かれ、地獄の業火に焼かれるのだ。

昨日まで私には、あたたかい家があった。

しかしその家から、私は追い出された。

もうすぐ命が尽きる私を、悪魔が見ている。

真っ黒な衣をまとった悪魔が奇声をあげながらこちらを見ている。

道端に転がる私の前を多くの人が通る。

しかし私の方を見る人はいない。

見たとしても、顔をしかめるだけだろう。

私に未来はない。

私にもう生き延びる道はない。

私にはもう動く力はない。

静かに死を待つだけだ。

いつのまにか悪魔が目の前にいた。

悪魔はためらうことなく私の皮膚を破る。

私から血が流れた。

悪魔は、構うことなく私の中身を引きずり出す。

しかし悪魔は私を殺すことをしない。

ただ、もてあそぶだけだ。

死神がやってきた。

ついに私は死ぬようだ。

死神は私の前に立つとその、大きな口をあけた。

私と同じような格好をしたものたちがその口に吸い込まれてゆく。そして私の番になった。

死神の子分に持ち上げられ、私は死神の口へと吸い込まれていった。

「……まったく、勘弁して欲しいよなあ」

助手席に乗り込んできた相棒が言った。

「ああ、またか」

俺は車を発進させながら答えた。

「……まったく、カラス防止ネットくらい被せろってんだ」

相棒はまだブツブツと言っていたが、俺はそれ以上答えずゴミ処理場への道を急いだ。

（後書き）

どの行で「私」の正体はわかりましたか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8189/>

あるものの死

2010年10月17日07時07分発行